

## はしがき

最近の日本の不安定な経済状況から、マクロ経済において最も費用がかからず、収入を上げることを目指すならば、インバウンド観光旅行者を増やすことが重要であり、そのためには既存の観光資源を利用して、外部経済効果を上げながら地域および日本全体を活性化していくことが第1に考えられる。観光は移動が伴うために、日本人旅行者のみならず、外国人旅行者にとって、まず交通の整備、とりわけ空港の整備が必要となる。

本叢書は、日本における外国人旅行者の行動と空港の立地との関係に照準をあて、主に『JNTO 訪日外客訪問地調査 2009』（(財)国際観光サービスセンター）による15カ国のアンケート調査にもとづいて、空港観光圏、観光およびビジネス目的別観光地の特徴、外国人旅行者の満足度等に関する分析を行っている。このうち、いくつかは「日本観光学会中部支部平成22年研究発表大会」（椋山女学園大学）で発表されたものであり、ここで頂いたコメントなどを踏まえて加筆修正が施されている。さらに、本書はグローバル化の中で注目される中国の租界地観光、日本の過疎地域の在り方など多角的観点から構成されており、今後の観光研究に寄与できるものと考えている。

本叢書に寄稿して頂いた麻生憲一先生（奈良県立大学）ならびに角本伸晃先生（椋山女学園大学）は、本学経営総合科学研究所の客員研究員でもあり、親交を通じて同研究所の「まちづくり」プロジェクトでもたいへんお世話になっている。この場を借りて謝意を表する次第である。

2011年1月21日  
愛知大学の研究室にて  
神頭広好